

菊川西中だより

校長室の窓

命はすべてに
優先する
～「世界に一つだけの花」に思う～



右の写真は、本校のPTA親子奉仕作業のものです。黄菊祭体育部門の直前で、グラウンドの除草作業は必須です。私が今までに勤めた学校では**環境教育担当**と言えば同時に清掃担当、花壇担当を受け持つことが多く、環境教育→清掃や花壇→除草作業というイメージが強いのです。

私は30才くらいの頃、当時の文部省で開かれた環境教育の会合に静岡県代表として参加させていただいたことがありました。そこで「海で赤潮が発生し、環境が悪くなったといいますが、**赤潮のプランクトンにとっては環境が良くなったから増えた**のではないか。環境問題は『人が住みやすい環境だけを大切にする』ということですか？それでよいのですか？」と文部省の担当に詰め寄った事があります。そう考えると、除草作業は「花壇には**人が美しいと思える植物だけ育てて欲しい。そうでない雑草は引っっこ抜いて命をとる。**」となります。一方、私は子ども達に機会があるたびに「命は全てに優先します。自分や家族、友達の命を大切に、**私たちの食事のために命を捧げてくれた動植物に感謝**し、『いただきます』と素直に言えるようにしましょう。」と話しています。この矛盾にはいつも悩まされます。

ある男性ボーカルグループの「世界で一つだけの花」という歌に「花屋の店先に並んだ…この中で誰が一番だなんて 争う事もしないで バケツの中誇らしげに しゃんと胸を張っている…」という歌詞があります。私は『もし花に心があって、この歌詞を聞いたらどう思うだろうか？』と思ってしまいます。なぜなら、「花」は植物の生殖器官です。虫が飛んできて花粉をつけてくれないと受精して種子をつくれません。**～争う事もしないで～**ではなく、バケツの中で一番どころか隣の花より少しでも目立とうと必死な生存競争を戦っているのです。『**隣の花よりちょっとでも目立たないと、僕らは命をつなげないんだ。お気楽な歌を歌わないでくれ!!**』植物の声が聞こえてきそうです。**必死になって咲いているからこそ花は美しい**のかもしれませんが。しかしその花が、花壇やグラウンドに生えてきた雑草だったら私は「環境整備作業」と称して除草を行うでしょう。「雑草ぼうぼうの花壇やグラウンドが良い」などと言う気も毛頭ありません。自分は理数科→理学部と理系一筋の人間だと学校 HP などにも書きましたが、血が大の苦手な高校時代の進路相談で「医学部は絶対にいやです」というと先生が「森田は切った、張ったは苦手か!」とおっしゃったのを覚えています。私は理学部で物理を学びましたが、理学部内でも生物棟へ行くのが好きではありませんでした。実験用ラットの糞尿や血の臭いがするからです。人のものだったら…足がすぐみえます。しかしそれを我慢して排泄物の検査や手術をしてくれる医師や看護師の方がいなければ私たちの命は守れません。「私たちの命を守るためにラットの命を取る」ここにも「命の矛盾」を感じます。

9月に入り**夜長の季節**になりました。この機会に菊西中の子ども達には、「命」についてじっくり考えて欲しいなと思うこの頃です。「正解」はないと思いますが…

(文責 校長)